

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300130	事業の開始年月日	平成23年12月1日	
		指定年月日	平成23年12月1日	
法人名	株式会社へいあん			
事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」			
所在地	(250-0042)			
	小田原市荻窪887			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果	平成27年7月9日	
		市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

へいあん荻窪は、当法人として5箇所目のグループホームということで、設備面では細かな点において、経験を生かした内容となっておりますが、最も大きな他施設との違いは、中庭スペースを広く取り、菜園やパーゴラを設ける、安全確認用カメラを設置する、などの工夫をしている点です。これは、建物内に限らず、敷地内全体を安全・安心のスペースとして入居者様に自由に活用して頂くことを目指して設計したものです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年1月13日	評価機関 評価決定日	平成27年4月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は、小田急・JR線小田原駅西口から徒歩約20分の住宅地にあり、建物は木造2階建である。広い庭には遊歩道、ベンチ、菜園などがある。玄関には、車椅子対応の洗面台が設置され外出後の手洗いやうがいなど衛生管理がしっかりと行われている。内部は全面バリアフリーで断熱効果が高い構造で、共有部分の温度と湿度が適度に保たれていて、利用者が快適に過ごせるように配慮されている。安全管理用カメラが備えられ、見守りが行き届いている。2階にある地域交流室を利用して、定期的にカフェを開いている。

【地域との交流】
地域との交流や連携が盛んに行われている。近隣の小学校の運動会を見学に行ったり、中学校の職業体験を受け入れたりしている。高校の和太鼓演奏グループが来訪した際は、高校生の演奏のあと利用者も和太鼓を体験した。福祉医療大学のコーラスグループが来訪した時は、コーラスのあと利用者と握手したりして交流を深めている。地域のボランティアはハーモニカ演奏、フラダンス、高校生の手話ダンスなどが来訪している。職員もボランティアとしてギター演奏をしている。

【多彩な外出支援】
地域の社会資源を活用した外出を年間行事計画に盛り込んでいる。近くの神社には、初詣やどんど焼きに出かけたり、地域の梅林、公園、バラ園での花見、レストランへの外食ツアーなどを毎月実施している。暮れには夜間希望者がイルミネーションを見物しに行った。外出に当たっては、職員が行き先に車椅子対応のトイレがあるか、テーブルが広いかなどを事前に調べてから出かけている。ケアプランに外出が組み込まれている場合は、実施持状況を経過記録に記入し、カンファレンスなどで定期的に評価している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」
ユニット名	1F・みかん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
○	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時のスタッフ全員で作成した事業所理念を、毎朝の朝礼、申し送り時に唱和、理念の共有に努めている。	管理者は、理念の中の「笑顔で明るく」「安心と安全」を大切に考え、事あるごとに職員に話している。職員は、利用者が笑顔で楽しく過ごせるように自分たちもいつも笑顔で接している。コミュニケーションを密にして信頼関係を築き、ここが安心して暮らしていける場所だということを実感してもらうことを心がけている。	
○	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や洗濯物を干している時など、声を掛けられる、また地域の清掃活動やお祭りなどのイベントに参加させていただいている。	自治会に加入し地区の行事に参加している。事業所前が、神社の例祭のお神輿休憩所になっていて、利用者が表に出て見物している。白山中学校の職業体験、相洋高校の和太鼓演奏、福祉医療大学のコーラスなどを受け入れている。芦子小学校の運動会に出かけている。ボランティアの来訪も多い。	
	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、高齢者の施設について、ご理解いただいたりしている。	/	/
○	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所以来、2ヶ月に1度、定期開催しており、運営状況を含め、業務事故を開示、報告している。	運営推進会議は2か月ごとに開催し、メンバーは入居者・家族代表、民生委員、自治会会長、オーナー、老人会会長・近隣住民代表などである。会議では、事業所の活動内容、入居者の状況、行事や防災訓練の報告を行っている。今年度は運営推進会議に外部評価調査員が参加し外部評価について話した。	
○	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小田原市役所介護保険課や第二地域包括支援センターとやりとりを行っている。	小田原市役所介護保険課とは共用型通所介護の運営について相談したり、アドバイスを受けたりしている。小田原市のグループホーム連絡会に参加している。今年度は、市内の22か所の地域密着型事業所をつなぐ「RUN伴+小田原」というたすきリレーに利用者と職員が参加した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる具体的な行為は正しく理解し、定期的研修等通じて教育を行っております。安全確保の観点から、玄関の施錠、2階フロア出入り口の施錠を現在行っています。	職員は、身体拘束排除・高齢者虐待防止の研修を受けている。大腿骨頸部を骨折した利用者自身の意向で、リハビリプログラムにより手引きで歩けるようになった事例があり、「車いすから解放する」というテーマで法人内で研究発表を行った。家族の了解を得て、玄関と2階フロア入り口は施錠、1階フロア入り口は解錠している。	
7	○	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年の3月の身体拘束・虐待防止研修を全スタッフ受講しています。その後も、継続して年1回の全員受講を行っています。ミーティングの際、虐待に繋がることはないか話し合っている		
8	○	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現在利用実績なし。年1回全従業員対象に権利擁護に関する研修を行っています。		
9	○	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、契約書、重要事項説明書、預かり金管理及び日用品購入等代行についての約定書、等について十分な時間を取りご説明、ご理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、利用者やご家族に参加して頂き、要望等を伺う機会としているが、現在のところ具体的な要望等は出していない。	家族の訪問時などに意見や希望を聞き取っている。家族会は親睦を兼ね年に1~2回開催し、事業所の状況報告と介護保険法改正や共用型通所サービスなどの説明をした後意見交換をしている。「歩く機会を多く作って欲しい」や「水分補給を充分してほしい」などの要望に応じて個別ケアを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のリーダーミーティング、フロアミーティングにて、意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は、毎月のリーダーミーティングやフロアミーティングで職員の意見や提案を聞いている。遅番や夜勤、出・退勤時などに事務所で1対1になるタイミングをみて声をかけコミュニケーションをとっている。職員の提案を受けて、寒さ対策に毛布を早めに用意するなどサービスに反映させている。	
	12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準を個々の能力・経験年数に応じ職業等級制にし、適正に判断できるよう示されている。		
○	13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりの個別研修計画（年間）を作成、それぞれが力量に合せた目標を設定、個々のレベルアップを図る環境を整えている。		
○	14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会への参加、活動等について、理解と支援をして頂いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
○	15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初の不安を出来る限り緩和できるように、スタッフ全員が笑顔で、お客様の声に耳を傾けることを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等との関係作りは、入居者の安心の生活にも欠かせない条件であると認識し、契約時から信頼関係作りに重点を置いている。		
		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、出来るだけご本人、ご家族の意向を聞きだし、ケアプランに反映するよう心掛けている。		
○		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食器洗いなどその人が出来ることを行って頂きサービスを受けるのみでなく、ホームで生活している感が持てるよう支えて頂いている		
○		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がホームに立ち寄りやすい雰囲気作りに注力している。		
○	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人の方々も気軽に面会に来やすい環境づくりに努めている。	近くの小高い場所にあるみかん園に何度も散歩に行き、馴染みの場所になり挨拶を交わす人ができた利用者がいる。以前からの知人や友人に、電話をかけたたり手紙や年賀状を出す支援を行っている。知人が来訪した場合は、居室や廊下の談話コーナーに案内してお茶を出すなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性については、日頃から注意深く観察し、適切なフォローで関係作りを支援している。午前中は全員でレクを行い、他者との関わりが持てるよう支援している。		
○		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて本人、家族が気軽に相談声掛けして頂ける関係作りを心掛けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
○	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回のモニタリングや担当制により、一人ひとりの利用者の希望、意向を把握できるような体制をとっている。	職員は、日々のサービスの際に利用者と言葉を交わして要望を聞き取っている。意志の疎通が困難な場合は、わずかな表情の変化や動作を見て意思をくみ取っている。把握した情報はメモ用紙に書き個人ファイルに保管し、必要に応じてカンファレンスで話し合いケアプランに反映させている。	
○		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会ある毎に、管理者、計画作成担当者、又はフロアリーダーからご家族等にこれまでの経過等を聞き取るようにしている。		
○		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握は、スタッフ全員が心がけ、個別サービス記録等に残し情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングは、各担当者がまとめ、フロアミーティングにおいて検討、介護計画を作成している。	ケアプランは通常は6か月、状況の変化があるときは随時見直している。ケアプランに沿った実施記録は、個別記録表に記入している。利用者の日々の状況や医療情報は申し送りノートに記録して皆で共有している。記録を基に毎月カンファレンスを行い、利用者ごとにモニタリングを実施し、目標達成度を数値化して評価している。	
○	27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実践状況は、スタッフ全員で個別記録への記入を心掛けている。申し送りノート、横ノート（スタッフ間情報共有用）を利用している。		
	28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	H25年7月より、共用型の通所を開所、現在1名ご利用されている、12月より短期利用共同生活介護サービス開始に向けた届出を行った。		
	29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、訪問マッサージ・訪問歯科など入居前の馴染みの先生を利用されている。		
○	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診頂けるかかりつけ医として、現在内科と精神科のDr 2名に関わって頂いている。個別にて往診が必要な入居者についてはご家族に説明し同意を受け、診察させて頂いている。	協力医の往診は月2回である。法人の訪問看護師が週1回来訪して、健康チェックや爪切りなどを行っている。訪問歯科医の往診は週1回であるが、治療の必要があれば随時来ている。以前からのかかりつけ医の往診は月1回だが、状態が変われば随時来診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーション（平塚）から、週1回訪問を受け、入居者の健康管理を行っている。		
○		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとは、緊密に連絡を取り合っている。		
○	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当社の方針はお伝えし、ご理解頂いている。必要に応じて「重度化した場合における対応に関する同意書」の締結等行っている。	利用者や家族には「重度化した場合における対応に係る指針」を契約時に説明している。重度化が進んだ場合、必要に応じて医師、家族、事業所で話し合っ「看取り介護の同意書」を受け取っている。事業所では、看取りについての心構えや基本的注意事項の研修を実施している。	
○		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員がCPR研修を受講済み、日常の朝礼時にもCPR手順を復唱し、実践力を身に付けている。		
○	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の6月と来年2月（予定）避難訓練を実施、9月には大地震を想定した防災訓練を実施した。	防災訓練は年3回、夜間想定訓練、火災発生避難訓練、地震発生避難訓練を実施している。運営推進会議で避難訓練の参加を呼びかけ、地域住民に参加してもらった。オーナーや地域住民には一時避難時の見守りを依頼した。災害備蓄は飲料水、食料、防災ずきん、医療品など職員の分も含め約3日分保有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
○	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内で実施の研修において、お客様への言葉かけ、関係作りについて勉強している。	職員は、接遇や認知症対応などの研修を受けている。管理者は職員の言動が不適切だと思われる場合はその都度注意している。個人情報を含む書類は1階事務室や各ユニットの施錠できるキャビネットに保管している。	
○	37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が気兼ねなく思いを伝えられる雰囲気を作ること、その為にはお客様と信頼関係を築くことを重視している。		
○	38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、お客様のペースに合わせるよう心掛けている。		
○	39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時は馴染みの洋服をご持参いただくようご家族へお話ししている、またイベント時には化粧をするなど楽しみを持って頂いている。		
○	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、食器洗いなど、出来ることは一緒にお手伝い頂いています。	食事は、専門業者にメニューや食材の配達を依頼し職員が調理している。庭の菜園で採れた季節のものをメニューに加えることもある。食事の準備、後片付け、食器洗いなどを手伝う利用者がある。職員は介助しながら同じ物を食べていた。個々の状況に合わせて、見た目に配慮したとろみ食などを提供することもある。	利用者の高齢化・重度化に備え、管理栄養士などに依頼して食事の栄養バランスや塩分量、カロリーなどをチェックすることを望みます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎日チェックし摂取量を把握している。		
○		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、実践して頂けるよう声掛けをしている。ケアスポンジ利用など個別対応している。		
○	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を活用し、排泄パターン把握に努めている。	排泄チェック表を活用し、頃合いを見て声かけや誘導を行って自分でトイレ排泄ができるように支援をしている。トイレは各フロアに3か所あり、失敗した場合でも中が広いのでその場で処理できる。男性用小便器も設置している。	
○		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ビオヨーグルトや牛乳、オリゴ糖など、飲食物の工夫をしている。		
○	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に合わせて入浴をしていただく、ゆっくりと入浴して頂き個別で話す機会を設ける支援をしている。必要であれば時間を問わず実施している。	入浴は通常は週2~3回であるが、希望があれば柔軟に対応している。脱衣所にベンチが設置され、着替えや入浴後の休息に利用出来る。お湯はかけ流し状態にして、できるだけ清潔な状態を維持している。脱衣室に入浴チェック表や入浴後の薬の管理表を貼り付けて間違いのないようにしている。菖蒲湯や柚子湯で季節を感じてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて午睡のすすめや、環境を整えている。		
○		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、服薬チェック表を活用している。個別のファイルに処方された薬の内容が常に新しいものが上にくるように綴じられ確認出来るようにしている。		
○		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみやテーブル拭きの声掛けにて役割作り、創作の好きなかたには壁紙作り、又カフェの開催で楽しんで頂く工夫をしている。		
○	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭での散歩等、戸外に出よう声掛けを行っている。また、エリア責任者にも協力頂き、個別の外出支援等行っている。	広い敷地内に車椅子に対応できる遊歩道があり、日常的な散歩や外気浴などに活用されている。近隣の神社、公園やフラワーガーデンの見物やミカン園散歩、ファミリーレストランなどにも行っている。ケアプランに外出支援が組み込まれているケースもある。	
○		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、現在施設にて一括管理しています。買物に同行して頂き、お好きなものを購入して頂く等の支援は行っていますが、本人所持はして頂いておりません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されるお客様には、本人自ら電話して頂く等、支援している。		
○	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して暮らしていただける居住空間を心がけ、季節感を取り入れた装飾等工夫している。	リビングルームには、利用者と共に作った季節の壁飾りを掲示している。ダイニングルームに直面してキッチンがある。廊下にあるスタッフコーナーからはフロア全体が見渡せる。すべての洗面台は車椅子対応である。廊下に談話用のテーブルとイスが設置されていた。	
○		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングのほか、談話コーナーが設けてあり、独りになりたいお客様の良い居場所となっている。廊下にテーブルと椅子を置きゆっくりされている。		
○	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、出来るだけ使い慣れた馴染みのものを持ち込んで頂いている。（照明も含めて）	1階の居室には出窓、2階の居室にはベランダがある。室内は、空調設備とキャビネットが常備され、利用者はベッド・照明器具・防災カーテンに加え、テーブル、椅子、一面鏡、テレビ、家族の写真、仏壇など馴染みのものを持ち込んでいる。利用者ごとに、職員手作りの個性のある表札がかけてあった。	
○		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室や居室内の手すりの位置に配慮、洗面台も車椅子対応の鏡を備える等、工夫している。階段の段差の高さも配慮、敷地内を含め6箇所に監視カメラも設置している。		

事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」
ユニット名	小梅

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
○	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時のスタッフ全員で作成した事業所理念を、毎朝の朝礼、申し送り時に唱和、理念の共有に努めている。		
○	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や洗濯物を干している時など、声を掛けられる、また地域の清掃活動やお祭りなどのイベントに参加させていただいている。		
	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、高齢者の施設について、ご理解いただいたりしている。		
○	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所以来、2ヶ月に1度、定期開催しており、運営状況を含め、業務事故を開示、報告している。		
○	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小田原市役所介護保険課や第二地域包括支援センターとやりとりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる具体的な行為は正しく理解し、定期的研修等通じて教育を行っております。安全確保の観点から、玄関の施錠、2階フロア出入り口の施錠を現在行っています。		
7	○	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年の3月の身体拘束・虐待防止研修を全スタッフ受講しています。その後も、継続して年1回の全員受講を行っています。ミーティングの際、虐待に繋がることはないか話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現在利用実績なし。年1回全従業員対象に権利擁護に関する研修を行っています。		
9	○	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、契約書、重要事項説明書、預かり金管理及び日用品購入等代行についての約定書、等について十分な時間を取りご説明、ご理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、利用者やご家族に参加して頂き、要望等を伺う機会としているが、現在のところ具体的な要望等は出ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		11 7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のリーダーミーティング、フロアミーティングにて、意見や提案を聞く機会を設けている。		
		12 ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準を個々の能力・経験年数に応じ職業等級制にし、適正に判断できるよう示されている。		
○		13 ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりの個別研修計画（年間）を作成、それぞれが力量に合わせた目標を設定、個々のレベルアップを図る環境を整えている。		
○		14 ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会への参加、活動等について、理解と支援をして頂いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
○		15 ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初の不安を出来る限り緩和できるように、スタッフ全員が笑顔で、お客様の声に耳を傾けることを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	○	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等との関係作りは、入居者の安心の生活にも欠かせない条件であると認識し、契約時から信頼関係作りに重点を置いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、出来るだけご本人、ご家族の意向を聞きだし、ケアプランに反映するよう心掛けている。		
18	○	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食器洗いなどその人が出来ることを行っている。		
19	○	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がホームに立ち寄りやすい雰囲気作りに注力している。		
20	8 ○	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人の方々も気軽に面会に来やすい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性については、日頃から注意深く観察し、適切なフォローで関係作りを支援している。		
○		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて本人、家族が気軽に相談声掛けして頂ける関係作りを心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
○	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回のモニタリングや担当制により、一人ひとりの利用者の希望、意向を把握できるような体制をとっている。		
○		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会ある毎に、管理者、計画作成担当者、又はフロアリーダーからご家族等にこれまでの経過等を聞き取るようにしている。		
○		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握は、スタッフ全員が心がけ、個別サービス記録等に残し情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○	26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングは、各担当者がまとめ、フロアミーティングにおいて検討、介護計画を作成している。		
○	27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実践状況は、スタッフ全員で個別記録への記入を心掛けている。申し送りノート、横ノート（スタッフ間情報共有用）を利用している。		
	28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	H25年7月より、共用型の通所を開所、現在1名ご利用されている、12月より短期利用共同生活介護サービス開始に向けた届出を行った。		
	29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、訪問マッサージ・訪問歯科など入居前の馴染みの先生を利用されている。		
○	30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診頂けるかかりつけ医として、現在内科と精神科のDr 2名に関わって頂いている。個別にて往診が必要な入居者についてはご家族に説明し同意を受け、診察させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーション（平塚）から、週1回訪問を受け、入居者の健康管理を行っている。		
○		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとは、緊密に連絡を取り合っている。		
○	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当社の方針はお伝えし、ご理解頂いている。必要に応じて「重度化した場合における対応に関する同意書」の締結等行っている。		
○		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員がCPR研修を受講済み、日常の朝礼時にもCPR手順を復唱し、実践力を身に付けている。		
○	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の6月と来年2月（予定）避難訓練を実施、9月には大地震を想定した防災訓練を実施した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
○	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内で実施の研修において、お客様への言葉かけ、関係作りについて勉強している。		
○	37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が気兼ねなく思いを伝えられる雰囲気を作ること、その為にはお客様と信頼関係を築くことを重視している。		
○	38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、お客様のペースに合わせるよう心掛けている。		
○	39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時は馴染みの洋服をご持参いただくようご家族へお話ししている、またイベント時には化粧をするなど楽しみを持って頂いている。		
○	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の大きさやトロミを工夫している、看護師よりトロミの研修をしてもらい、トロミの量の調節にも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎日チェックし摂取量を把握している。		
○		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、実践して頂けるよう声掛けをしている。		
○	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を活用し、排泄パターン把握に努めている。		
○		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳、オリゴ糖など、飲食物の工夫をしている。		
○	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に合わせて入浴をしていただく、必要であれば時間を問わず実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて午睡のすすめや、環境を整えている。		
47	○	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、服薬チェック表を活用している。個別のファイルに処方された薬の内容が常に新しいものが上にくるように綴じられ確認出来るようにしている。		
48	○	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみやテーブル拭きの声掛けにて役割作り、創作の好きなかたには壁紙作り、又カフェの開催で楽しんで頂く工夫をしている。		
49	18 ○	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭での散歩等、戸外に出るよう声掛けを行っている。また、エリア責任者にも協力頂き、個別の外出支援等行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、現在施設にて一括管理しています。買物に同行して頂き、お好きなものを購入して頂く等の支援は行っていますが、本人所持はして頂いておりません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されるお客様には、本人自ら電話して頂く等、支援している。		
○	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して暮らしていただける居住空間を心がけ、季節感を取り入れた装飾等工夫している。		
○		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングのほか、談話コーナーが設けてあり、独りになりたいお客様の良い居場所となっている。廊下にテーブルと椅子を置きゆっくりされている。		
○	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、出来るだけ使い慣れた馴染みのものを持ち込んで頂いている。（照明も含めて）		
○		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室や居室内の手すりの位置に配慮、洗面台も車椅子対応の鏡を備える等、工夫している。階段の段差の高さも配慮、敷地内を含め6箇所監視カメラも設置している。		



目標達成計画

事業所名 小田原市「ろうきん」福祉センター

作成日 H27.7.9

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	15	食事に関し、 カリ-計算の 出来不出来、 精度を向上	高齢者の日に カリ-を把握 又、口元にあたり カリ-、食料の不足	栄養士の指導を受け カリ-計算を 毎日確認する	6ヶ月～ 12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。